

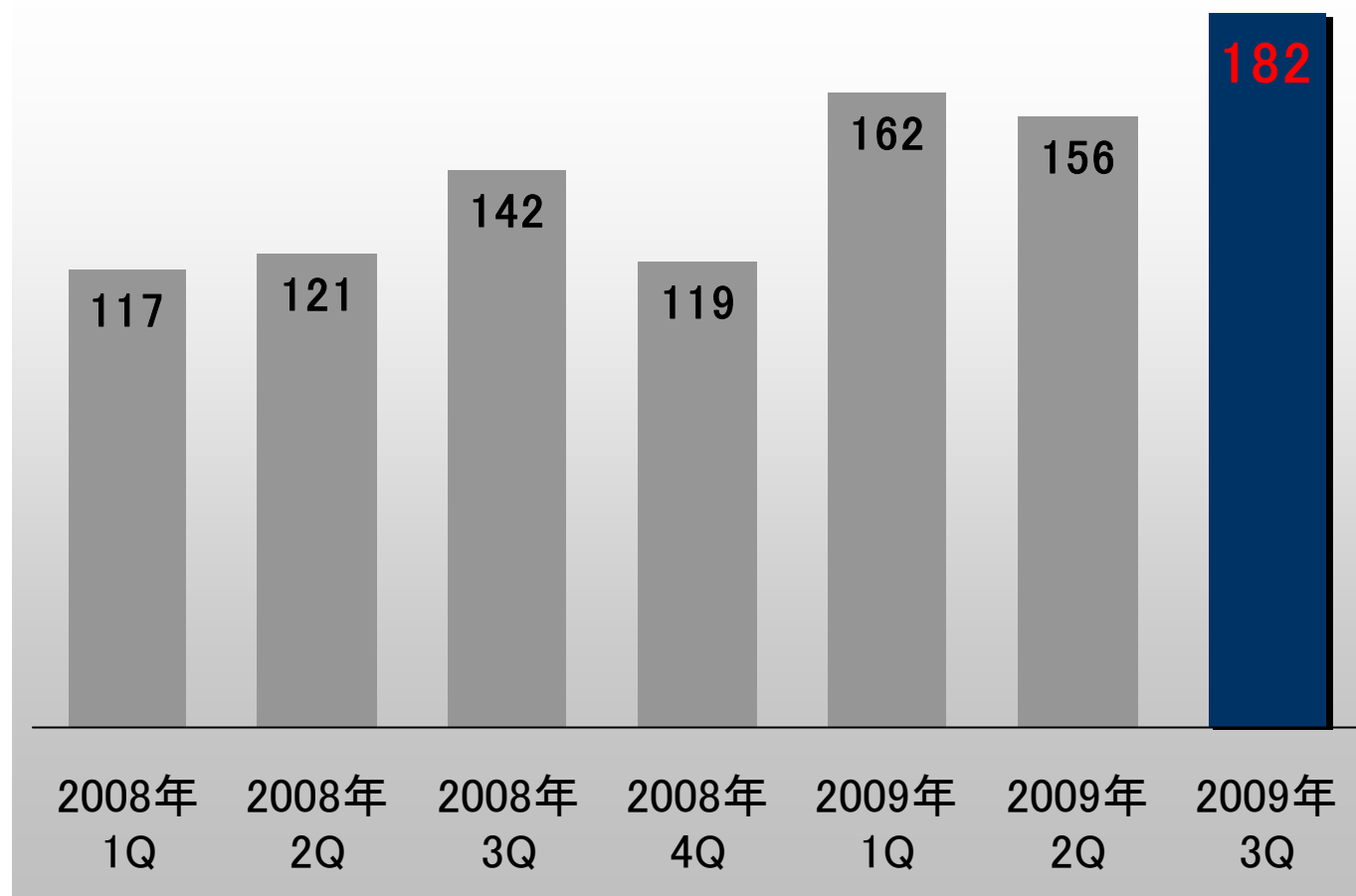
# 平成21年12月期 第3四半期決算のご報告

カルナバイオサイエンス株式会社



(四半期別売上高)

(百万円)



四半期別売上高(2008年12月期～2009年12月期第3四半期)※

※2008年12月期第1四半期は単独、2008年12月期2四半期以降は連結

## 売上高182百万円(第3四半期連結会計期間)

### ■創薬支援事業(122百万円)

- ・北米の大手製薬企業からのキナーゼタンパク質のバルク受注が増加

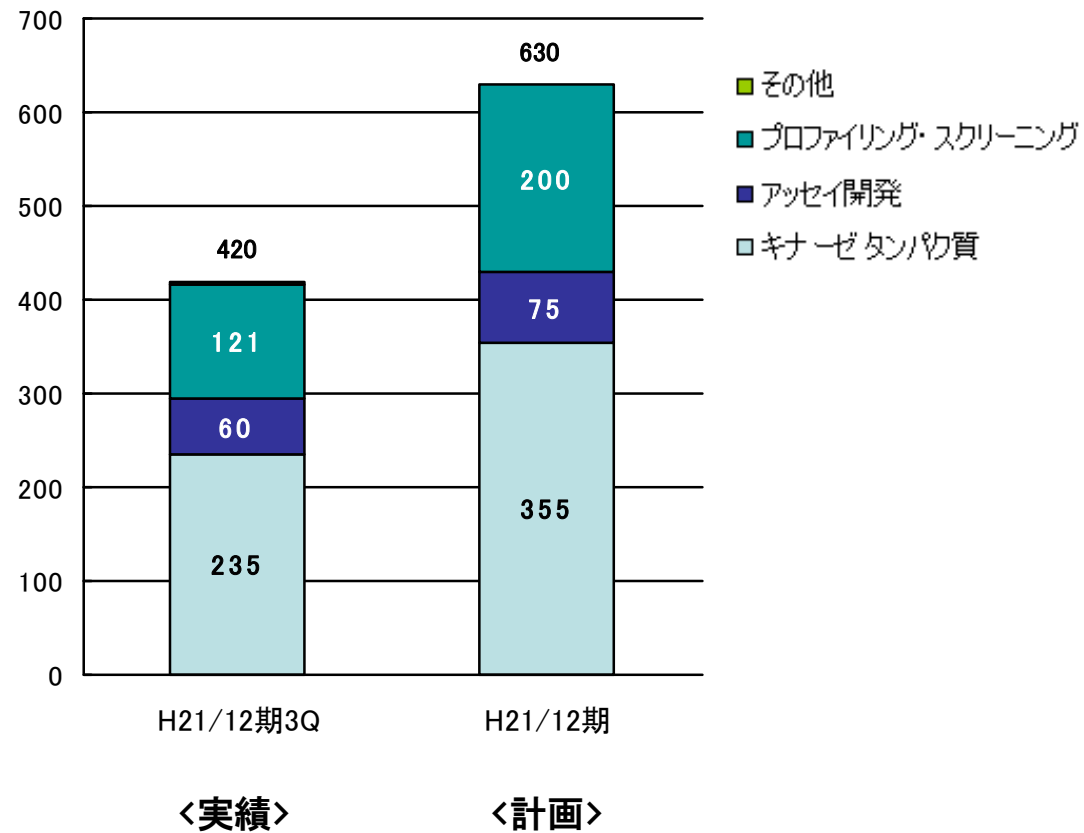
### ■創薬事業(60百万円)

- ・共同研究に係る収入を計上

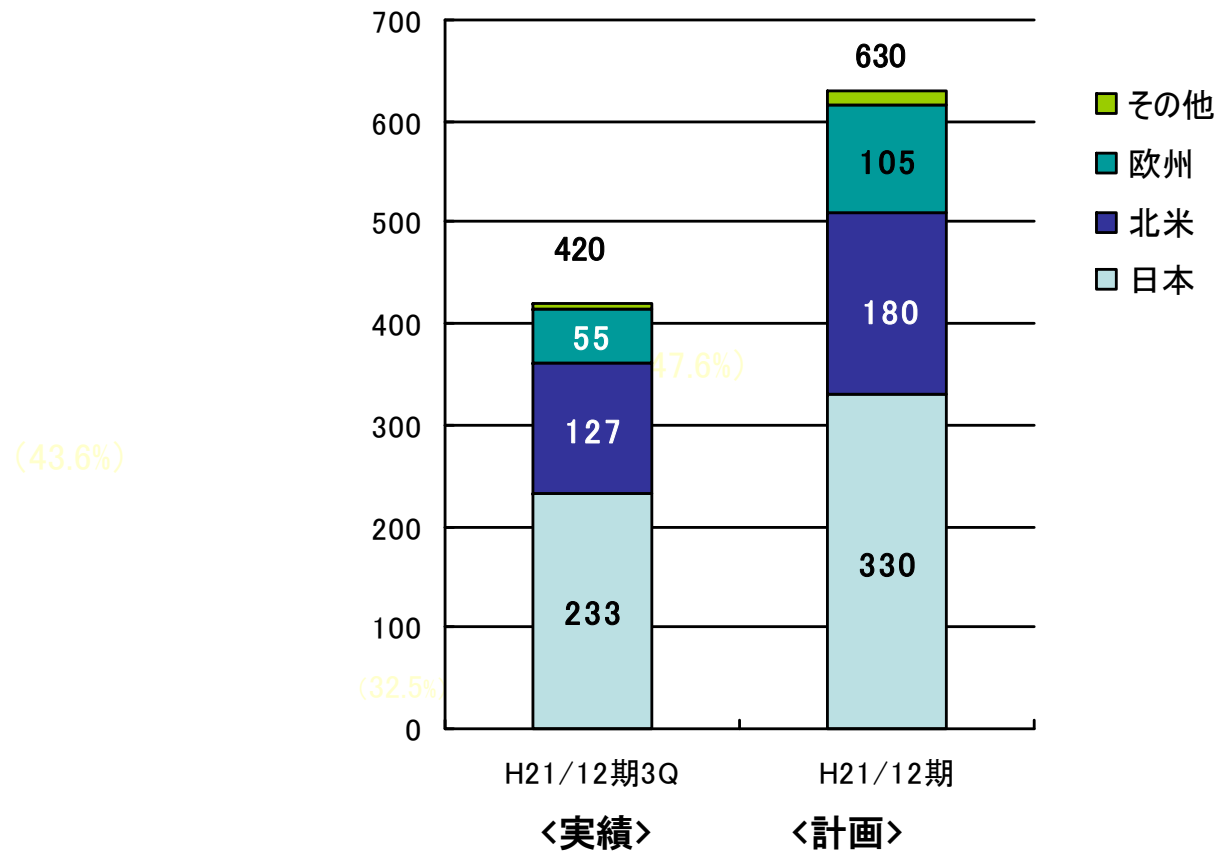
### ■損益(営業損益△67百万円)

- ・研究開発の効率化を徹底
- ・経費削減努力により諸経費を抑制し、損益を改善

(百万円)



(百万円)



## 第3四半期（2009年1月～9月）の業績の概況

（百万円）

		2009年12月期 3Q(1月～9月)	2008年12月期 3Q(1月～9月)／増減額		2009年12月期 通期計画	通期計画に 対する達成率
売上	創薬支援事業	420	359	61	630	66.8%
	創薬事業	80	20	60	80	100.9%
	合計	501	380	121	710	70.6%
売上原価		150	93	57		
売上総利益		351	286	64		
販管費	研究開発費	259	203	55	366	70.9%
	販管費(研究開発費を除く)	321	280	40		
	合計	581	484	96		
営業損失		△229	△197	△31	△359	—
営業外損益		3	△48	52		
経常損失		△226	△246	20	△372	—
特別損益		37	△5	42		
当期純損失		△189	△252	63	△338	—

※ 平成21年12月2日に、「マイルストーン開示に係る事業計画の修正について（平成21年12月期～平成23年12月期）」を公表しております

(百万円)

	09年3Q末		08年12月末		増減額
		構成比		構成比	
流動資産	1,481	82.2	1,705	82.4	△223
※ 現金及び預金	922	51.2	831	40.2	91
※ 有価証券	299	16.6	700	33.8	△400
その他	258	14.4	173	8.4	85
固定資産	320	17.8	365	17.6	△44
資産合計	1,802	100	2,070	100	△268
負債合計	187	10.4	281	13.6	△94
株主資本計	1,607	89.2	1,795	86.7	△187
評価・換算差額等	6	0.4	△6	-	13
負債・資本合計	1,802	100	2,070	100.0	△268

※有価証券は、リスクの極めて低い運用商品です

当期の目標である **5つの研究テーマの中から1つのステージアップ(探索⇒前臨床(又は導出))** を実現すべく、ガン及び免疫炎症性疾患を創薬重点領域として、  
 自社研究に加えて、国立がんセンター及び他社との共同研究が計画通りに進んでおります。

5つの研究テーマそれぞれにおいて、目的とするキナーゼを強力にかつ選択的に阻害する化合物を探索しているだけでなく、細胞や動物を用いた薬効評価試験を行ない、効果の高い化合物を選んでいきます。さらに、化合物の物理化学的性質、細胞膜の透過性および肝臓での代謝安定性等の向上を図り、医薬品として適した特性を持った前臨床候補化合物の絞り込みを行っております。これらの研究は計画通りに進んでおります。

研究と平行して、国内外の製薬企業の研究企画、ライセンス部門とのネットワークを構築し、導入候補企業との接触や情報交換を通して導出の機会を高める活動を行ってまいります。

ステージアップ	探索⇒前臨床(又は導出)		1
研究テーマ数		5	5
		平成21年12月期 第3四半期	平成21年12月期 通期計画





# 中期計画について

## 通期業績予想数値の修正(連結)

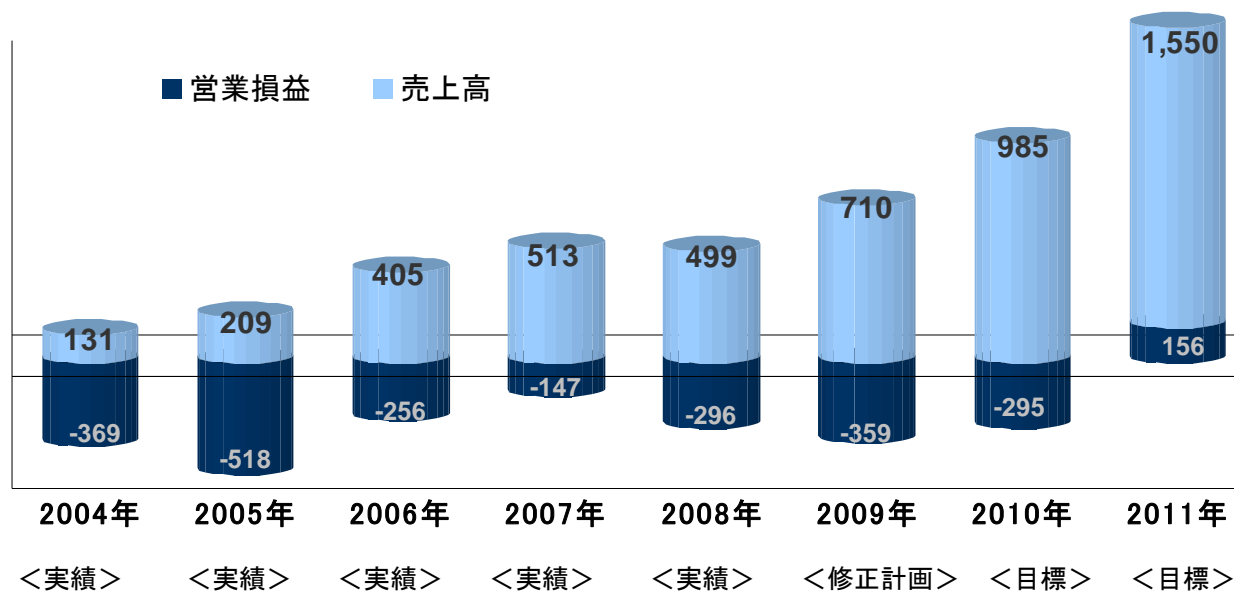
(百万円)

連結	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2009年12月期(修正前)	710	<u>△359</u>	<u>△372</u>	<u>△363</u>
2009年12月期(修正後)	710	<u>△359</u>	<u>△372</u>	<u>△338</u>

※ 詳細については、2009年11月12日発表の「特別利益の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

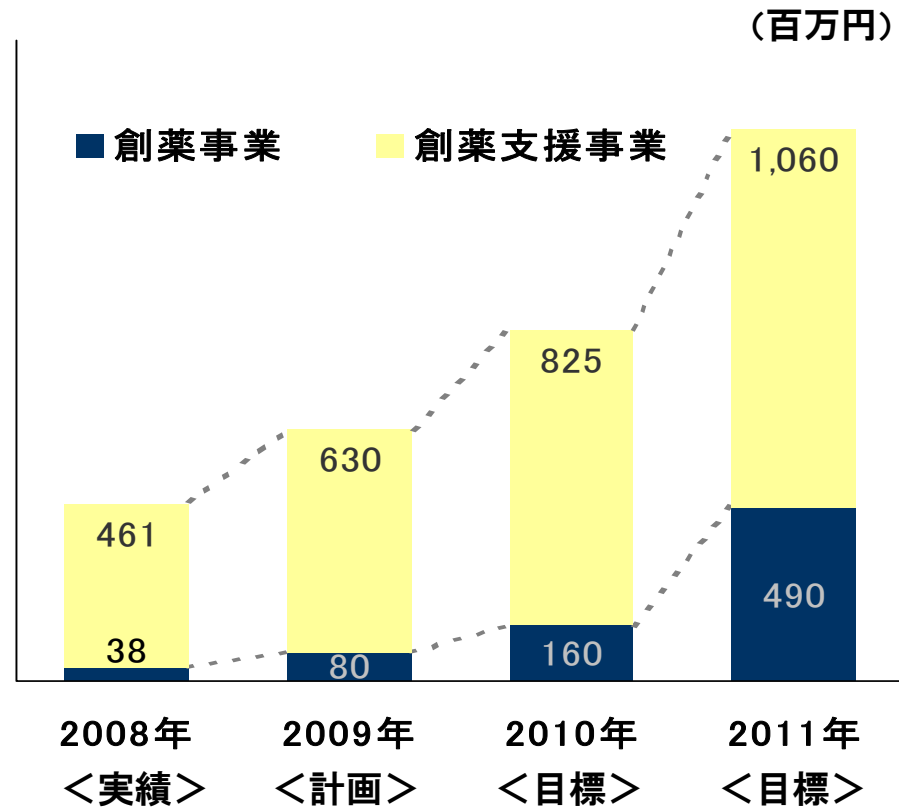
(百万円)

連結	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
2009年12月期(修正計画)	710	△359	△372	△338
2010年12月期(目標)	985	△295	△295	△327
2011年12月期(目標)	1,550	156	156	140



詳細については、12月2日発表の「マイルストーン開示に係る事業計画の修正について(平成21年12月～平成23年12月期)」をご覧ください。

## 事業別計画

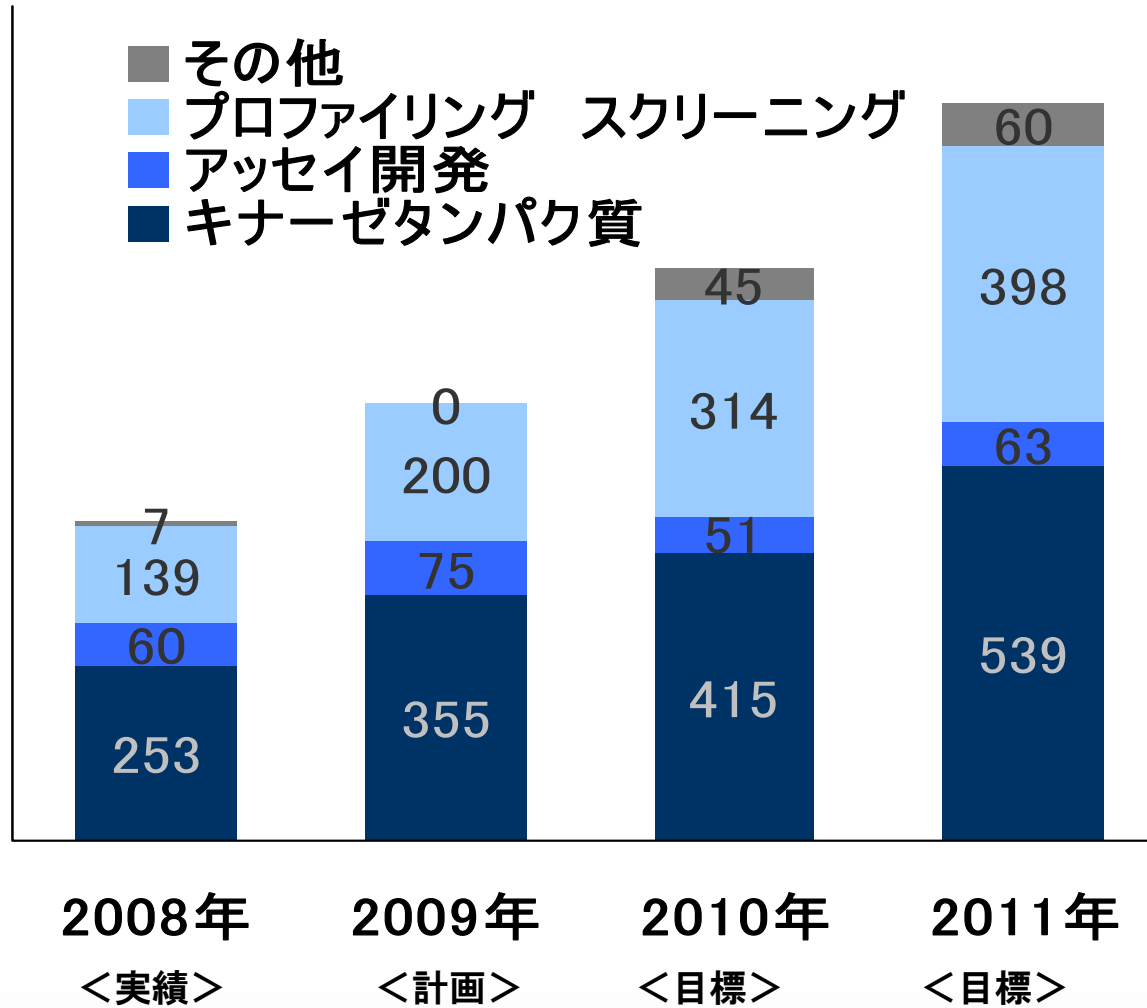


詳細については、12月2日発表の「マイルストーン開示に係る事業計画の修正について(平成21年12月～平成23年12月期)」をご覧ください。

商品別計画

(百万円)

- その他
- プロファイリング スクリーニング
- アッセイ開発
- キナーゼタンパク質



主力3つの製品及びサービスである、キナーゼタンパク質、アッセイ開発(アッセイキットおよびアッセイ系開発サービス)、プロファイリング・スクリーニングサービスの提供・販売を拡大

□顧客ニーズに基づいた製品・サービスのメニューの拡充

□製薬企業との年間契約獲得

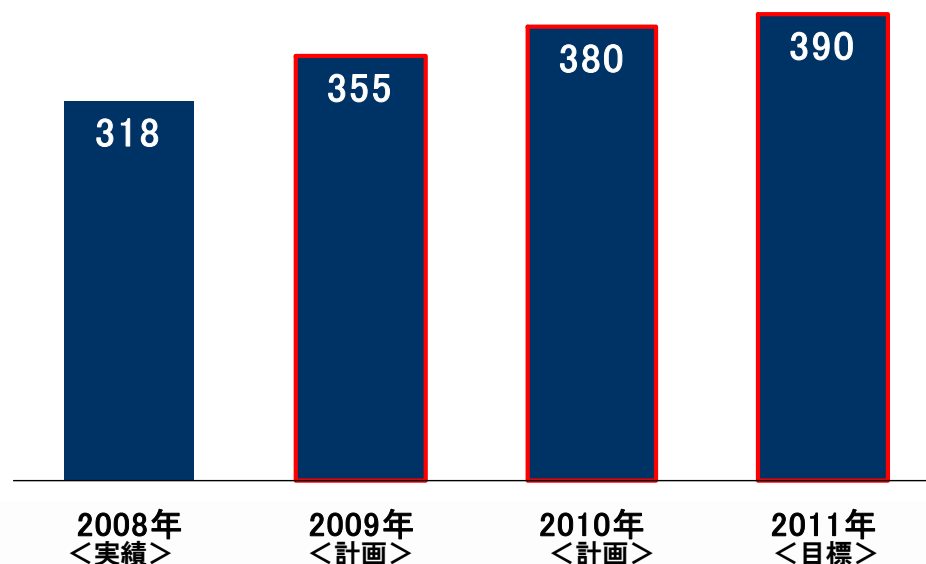
□新規顧客の開拓

参考:取引社数(2009年1月1日~9月30日の実績)

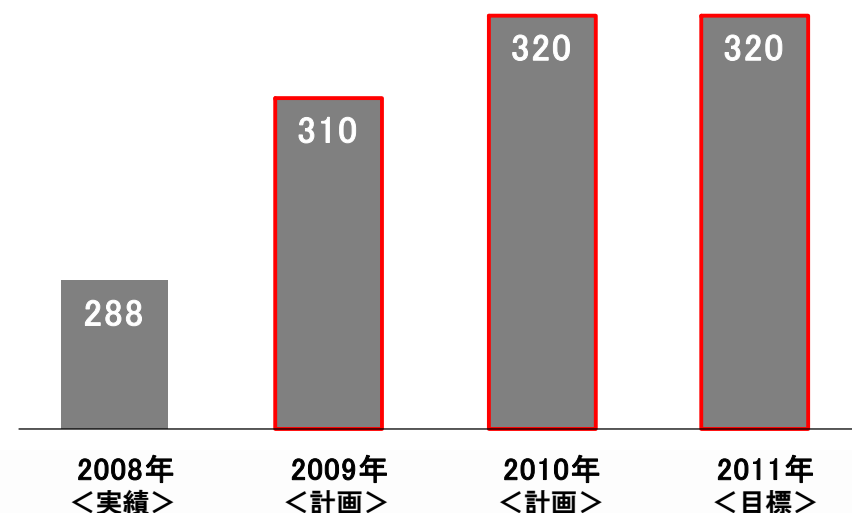
日本顧客	北米顧客	欧州顧客	その他	合計
59社	67社	22社	6社	154社

## 【キナーゼタンパク質 開発の計画】 (種類)

タンパク質キナーゼ、脂質キナーゼ、結晶化用キナーゼ



## 【アッセイ開発の計画】 (種類)



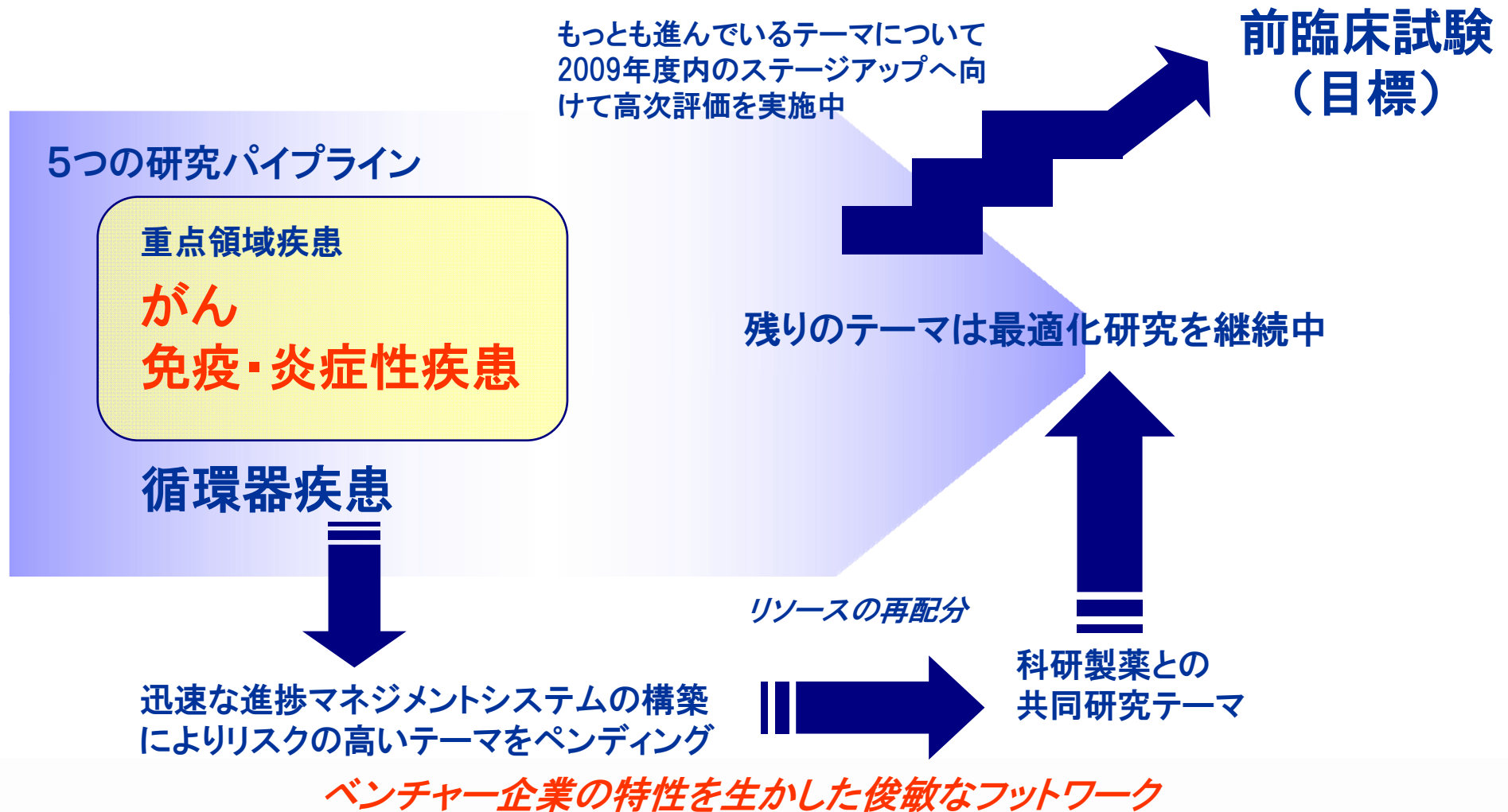
## 創薬基盤技術を駆使し、創薬研究期間を短縮化 早いタイミングでキナーゼ阻害薬の新薬候補化合物を創製して、早期導出を目指す

創薬の研究スペース拡充、人員拡充および最新設備への投資が平成20年度に前倒しで完了

- リソースを最大限に生かすため、ガンおよび免疫炎症性疾患を創薬重点領域とし、アカデミックや製薬企業との共同研究活用による研究効率化、**成功確率の向上**を目指す。
- 新規性の高いターゲットに関しても、基礎研究により創薬ターゲットとしての有効性を確認し、収益性の高い**first-in-class**を目指した自社創薬研究として積極的に研究活動を推進する。
- 探索研究段階後期にあるテーマについて早期導出を目指すとともに、探索段階初期にあるテーマについても、毎年1品目以上のステージアップを目標とする。
- さらに提携・導出戦略の積極的展開を進め、早期に創薬事業の体力強化を図る。
- 通常創薬研究では、導出・ドロップアウト等によりテーマ数が減少することがあるが、常に基礎研究段階に予備テーマを配置することにより、切れ目のないパイプラインの充足を目指す。

ステージ アップ数	前臨床⇒臨床(又は導出)			1	1
	探索⇒前臨床(又は導出)		1	1	1
研究テーマ数		5	5	5	5
		平成20年	平成21年	平成22年	平成23年

各研究テーマの見極めを迅速に行なう体制を構築し、タイムリーに成功確度に基づいたリソース配分・見直しを行ない、限りのあるリソースを最大限に活かしていきます。





今後とも一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

カルナバイオサイエンス株式会社

経営管理本部 経営企画部

〒650-0047

兵庫県神戸市中央区港島南町1-5-5 BMA3F

Tel (078)302-7075 Fax (078)302-6665

<http://www.carnabio.com/japanese/>

[ir-team@carnabio.com](mailto:ir-team@carnabio.com)

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用下さい。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的に利用される場合においても、ご自身の判断と責任において利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。